

	意見の内容(要旨)	市の考え方
1	財政が厳しいから、できるだけお金をかけずに小さくまとめるのではなく、思い切った投資をしていただきたいと強く願っています。 財政が厳しいことは理解していますが、10年後、20年後の地域を変えるような夢のある投資も必要なのではないでしょうか。せっかく大きな土地を活用するのであれば、子どもから高齢者まで、若者も家族も市外から訪れる人も、誰もが行ってみたいと思える場所にして欲しいと思います。そこで提案したいのが、映画館と商業施設を一体化した複合施設です。 洋服店やスポーツ用品など日常的に利用できる店舗、ラーメンだけでなくここに来れば美味しいものが食べられると思ってもらえる飲食店を本気で探し誘致して欲しいのです。 そして何より映画館です。映画を観るために喜多方に行くという流れをつくることができれば、単なる市民サービスではありません。映画を観に来た人が食事をする、買い物をする、家族で過ごす、市内を訪れることで市外に流れていた消費を喜多方の中で循環させることができます。全国の事例を調べ、映画会社や民間企業、飲食・小売業者などにも幅広く声をかけ、どうすれば実現できるのかをとことん探して欲しいのです。 最初の投資を抑えることだけが財政を大切にすることではないと思います。中途半端な施設をつくり、利用者が減り、維持費だけがかかることになれば、それこそ大きな無駄です。最初にしっかりと考え、必要な投資をして「ここに来たい」と思われる魅力をつくることによって人を呼び込み、買い物や食事、観光につなげ、地域の経済を動かしていく。 子どもたちが大人になったとき、みんなが集まれる素敵な場所があると言えるまちを残したい。旧東高校跡地を単なる土地の有効活用に終わらせないでください。喜多方の未来を変える場所にしてください。	旧県立喜多方東高等学校跡地を、将来にわたって多くの人が訪れたいと思える魅力ある場所にして欲しいというご意見は、市としても重要な課題として受け止めております。 この跡地の利活用は、将来的な財政負担も考慮し、民間事業者が施設を建設・運営する「民設民営」を基本としております。 このため、出店やテナント誘致については市ではなく民間事業者が行うこととなりますが、市の利活用の考えを基に民間事業者に創意工夫やノウハウを最大限に活かしていただくことで、魅力ある施設の実現につながるものと考えております。 市民の皆さんのご意見やご要望、市が行った「若い世代・子育て世代の消費行動に関するアンケート」の情報を事業者提供し、利用者の利便性の向上、地域の賑わいや活気の創出、地域経済の活性化につながるような施設となるよう、事業者幅広く提案を求めています。

喜多方市には、多くの観光客を呼び込める魅力がある一方で、観光で喜多方を訪れた際に、ラーメンや観光地を楽しんだ後に家族や友人と過ごせる場所が少なく、その後は会津若松市などへ移動してしまうことも多いのではないかと感じています。また、市民にとっても、休日や仕事帰りに友人や家族と気軽に楽しめる場所が少なく、「遊ぶために市外へ行く」という状況があると感じます。 そこで、旧喜多方東高等学校跡地を、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめ、市民と観光客の双方が利用できる屋内型の交流・レジャー施設として活用することを提案します。ジムのように運動を目的とするのではなく、「遊びながら自然に体を動かし、楽しく汗をかける」施設です。 現在、めぐらざは子どもとその保護者が楽しめる施設として重要な役割を果たしています。一方、東高跡地には、中高生、若者、社会人、高齢者まで幅広い世代が利用できる施設があれば、さらに市民の交流や市内での滞在につながるのではないのでしょうか。 2 また、喜多方市内だけでなく会津地域全体を見ても、温泉や岩盤浴などでゆっくり過ごせる場所への需要はあると感じます。例えば、屋内レジャー施設に温浴施設や岩盤浴、飲食スペースなどを組み合わせることで、「遊ぶ→温まる→食事をする」という時間を喜多方市内で過ごせる場所にすることもできるのではないのでしょうか。このような施設であれば、観光客が多い季節だけでなく、雨や雪、猛暑の日、平日にも利用することができ、観光客の滞在時間を延ばすだけでなく、市民の市外への流出を抑え、市内での消費や交流の創出にもつながると考えます。 旧喜多方東高校跡地が、単に施設を整備する場所ではなく、「喜多方に来たらここにも行ってみたい」「喜多方に住んでいてよかった」と思える場所になってほしいです。観光客を呼び込むだけでなく、市民、とりわけ若い世代が市外へ遊びに行かなくても休日を楽しめる環境をつくることで、「観光で訪れるまち」から「長く滞在したくなるまち」へ発展していくことを期待します。市民や若い世代の意見も幅広く取り入れながら、旧喜多方東高等学校跡地の活用を検討していただきたいです。	この跡地利活用については「民設民営」を基本としており、「公民連携可能性調査」の結果を踏まえ、実現可能性の高い物販・飲食を中心とした機能・施設を公募により導入していくこととしました。 今後行う公募において、民間事業者により市内での消費促進や交流の創出につながるような提案を求めてまいります。 また、観光客の滞在時間の延伸や市民が市内で楽しめる場所の充実については、市としても重要な課題と認識しておりますので、この跡地利活用以外においても、滞在型・着地型観光への取組や新しい魅力づくりによる交流人口の拡大、若者の地元定着に努めてまいります。
---	---

現存の建物を活かす方法を希望します。補修、免振強化工事や塗装などで経費を抑える。使用目的は、キャンプ場や宿泊場所とする。車中泊を希望される方、部屋を必要とする方が選択できるよう便宜を図る。お風呂を施設に設けるか、道の駅を利用していただく。ホテルを利用すれば、高額負担になりますので、その解消を図れば観光で来られる方が増えると思います。バーベキューなどできるようにすれば、利用される方も増えると思います。

複合施設などをつくったとしても少子高齢化で市民の数が減少している現状から、負の遺産になってしまいます。他県からの観光客を引き込む方向で進む方が得策だと思います。

新築を検討される場合は、市営の介護施設をつくっていただきたく申し添えます。

既存建物の利活用については、これまで、市民懇談会や市内団体等との懇談会、まちづくりの有識者や建築の専門家、市民、市内団体の代表者などからなる利活用検討協議会において、建物の現状、建築年数、規模などから将来的な改修や維持管理が大きな負担となること、建物を残すことにより利活用の幅が狭まることや民間活力を活用しにくくなることなどの議論があり、県から建物を解体して更地で譲与を受けることとなりました。

また、利活用については、公民連携可能性調査の結果を踏まえ、実現可能性の高い物販・飲食を中心とした機能・施設を公募により導入してまいります。